

(財) 日本体育協会公認スポーツドクター養成講習会 カリキュラム改定について

1. **時期** 基礎科目：平成 23 年度から新カリキュラムにより実施
 応用科目：平成 24 年度から新カリキュラムにより実施
 (注) 基礎科目の現行カリキュラムでの実施は本年度いっぱいとなります。
2. **改定内容**
 - (1) 科目数の変更
 基礎科目：現行 21 科目 ⇒ 改定後 25 科目
 応用科目：現行 20 科目 ⇒ 改定後 27 科目
 - (2) 講義時間の変更
 全科目について 1 科目あたりの時間を 60 分とする。
 (注) 現在は、基礎科目の一部科目と応用科目の全科目において講義時間が 90 分となっている。
 - (3) 科目内容の変更
 別紙科目対応表のとおり
3. **改定に伴う移行措置**
 - (1) 基本的に、科目領域 ((注) 基礎科目Ⅰ・Ⅱ、応用科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを指す) ごとの受講を念頭に置き、カリキュラム改定時に未受講領域がある場合は、新カリキュラム改定後の当該領域を受講する。
 (例) 平成 22 年度に基礎科目の受講を開始した受講者の A さんが、当該年度に基礎科目Ⅰのみ終了し、基礎Ⅱについては一科目も受講していなかった場合、A さんは平成 23 年度のカリキュラム改定以降に、新カリキュラムの基礎Ⅱ (全 12 科目) を受講することとなる。
 - (2) 改定実施年度 (基礎科目は平成 23 年度、応用科目は平成 24 年度) において現行カリキュラムの科目領域において一部未受講科目がある場合は、現行の科目に対応する改定後の科目を受講することが必要となる。また、現行の一科目から新カリキュラムの対応科目が二科目となるものについては、二科目の受講が必要となる。
 (例) 平成 22 年度に基礎科目の受講を開始した受講者の B さんが、基礎科目Ⅰの現行科目 No.7『運動と年齢—整形外科系』のみ平成 22 年度中に受講せず未受講だった場合、B さんは平成 23 年度のカリキュラム改定以降に、新カリキュラムの No.9『発育期と運動 (整形外科系)』および No.10『中高年者と運動 (整形外科系)』の二科目を受講する必要がある。

(注1) カリキュラム改定に伴い、対応科目が分割され、分割された科目が、現行の科目領域以外の領域に移行する科目については、受講を義務付けない。
(例) 現行カリキュラム基礎ⅡNo.12『運動と内科—スポーツによる生理的変化と病的変化』については、対応科目が、新カリキュラム基礎Ⅰの No.12『運動のためのメディカルチェック—内科系』と新カリキュラム基礎ⅡNo.14『運動と内科的障害 (急性期・慢性期)』に分割されるが、No.12『運動のためのメディカルチェック—内科系』については、受講を義務付けない。

(注2) カリキュラム改定に伴い、対応科目が現行の科目領域以外の領域に移行する科目については、受講を義務付けない。
(例) 現行カリキュラム応用ⅢNo.39『スポーツ行事と安全管理 (2) : 現場における救急処置』は現行のカリキュラムにおいて応用科目Ⅲとなっているが、新カリキュラムでは基礎科目ⅡNo.25 に移行するため、この科目が未受講だった場合は、対応科目の受講を義務付けない。

(注3) 基礎科目Ⅱ『運動と外傷』(No. 14~16) の科目については、個別の対応科目がないため、3 科目のうち 1 科目のみ未受講であった場合でも、新カリキュラムでは、全 3 科目 (No.15~17) の受講が必要となる。

FAQ

- Q. 平成 22 年度から基礎科目の受講を開始し、基礎科目 I は平成 22 年度中に受講終了しましたが、仕事の関係で基礎科目 II は受講できませんでした。平成 23 年度以降はどのように受講すればよいでしょうか？
- A. 平成 23 年度は、新カリキュラムの基礎科目 II（全 12 科目）を受講してください。全てを受講すれば基礎科目終了となります。なお、応用科目は基礎科目を終了した年度の翌年度に受講を開始することとなります。
- Q. 平成 22 年度から基礎科目の受講を開始し、基礎科目 I は受講終了しましたが、仕事の関係で基礎科目 II の『運動と内科スポーツによる生理的変化と病的変化』のみ受講できませんでした。平成 23 年度以降はどのように受講を進めればよいでしょうか？
- A. 平成 23 年度以降に、新カリキュラムの基礎科目 II の『運動と内科的障害（急性期・慢性期）』を受講していただければ基礎科目終了となります。そのさい、新規追加 4 科目（No.22～25）の受講は必要ありません。
- Q. 平成 22 年度から基礎科目の受講を開始し基礎科目は I・II とともに全て当該年度中に受講を完了しました。平成 23 年度はどのように受講をとり進めればよいでしょうか？
- A. 応用科目のカリキュラム改定は平成 24 年度からとなります。平成 23 年度については現行のカリキュラムでの実施となりますので、受講必要追加科目などはございません。現行のカリキュラムに従い受講してください。来年度に受講が出来ず、平成 24 年度以降に応用科目を初めから受講する場合は、新カリキュラムでの実施となりますので、全 27 科目を受講する必要があります。また、平成 23 年度に応用科目 I と II を受講し、III が受講できなかった場合は、III は平成 24 年度以降に新カリキュラムの内容で受講してください。

財団法人 日本体育協会公認スポーツドクター養成講習会 新旧カリキュラム対応表

◆現行カリキュラム

科目	No.	時間(分)	カリキュラム
基礎科目 基礎 I	1	60	健康スポーツ医学概論
	2	90	神経・筋の運動生理とトレーニング効果
	3	90	呼吸・循環系の運動生理とトレーニング効果
	4	90	内分泌・代謝系の運動生理とトレーニング効果
	5	90	運動と栄養・食事・飲料
	6	60	女性と運動
	7	60	運動と年齢－整形外科系
	8	60	運動と年齢－内科系
	9	60	心と運動
	10	60	運動のためのメディカルチェック－内科系
	11	60	運動のためのメディカルチェック－整形外科系
基礎科目 基礎 II	12	90	運動と内科－スポーツによる生理的変化と病的変化
	13	60	運動と内科－突然死、熱中症
	14	60	運動と外傷－過労性スポーツ障害
	15	60	運動と外傷－骨・関節の外傷
	16	60	運動と外傷－軟部組織の外傷
	17	60	運動と外傷－頭部の外傷
	18	60	運動負荷テスト概論
	19	60	運動処方概論
	20	90	運動療法とリハビリテーション－内科系疾患
	21	90	運動療法とリハビリテーション－運動器疾患

1,470

◆新カリキュラム

科目	No.	時間(分)	新カリキュラム	科目	分類
基礎 I	1	60	スポーツ医学概論	基礎 I	スポーツ医学 (医師会準拠)
	2	60	神経・筋の運動生理とトレーニング効果		
	3	60	呼吸・循環系の運動生理とトレーニング効果		
	4	60	内分泌・代謝系の運動生理とトレーニング効果		
	5	60	運動と栄養・食事・飲料		
	6	60	女性と運動		
	7	60	発育期と運動(小児科系)		
	8	60	中高年者と運動(内科系)		
	9	60	発育期と運動(整形外科系)		
	10	60	中高年者と運動(整形外科系)		
	11	60	メンタルヘルスと運動		
基礎 II	12	60	運動のためのメディカルチェック－内科系	基礎 II	
	13	60	運動のためのメディカルチェック－整形外科系		
	14	60	運動と内科的障害(急性期・慢性期)		
	15	60	スポーツによる外傷と障害(1) 上肢		
	16	60	スポーツによる外傷と障害(2) 下肢		
	17	60	スポーツによる外傷と障害(3) 脊椎・体幹		
	18	60	スポーツによる外傷と障害(4) 頭部		
	19	60	運動負荷試験と運動処方の基本		
	20	60	運動療法とリハビリテーション－内科系疾患		
	21	60	運動療法とリハビリテーション－運動器疾患		
	22	60	ドーピング防止		
	23	60	障害者とスポーツ		
	24	60	保健指導		
	25	60	スポーツ現場での救急処置		

1,500

科目	No.	時間(分)	カリキュラム
応用科目 応用 I	22	90	スポーツと環境
	23	90	スポーツ心理
	28	90	スポーツと内科(1): 競技選手に多い疾患－貧血、オーバートレーニング等
	31	90	スポーツ外傷とスポーツ障害(1)－脊髄・脊柱
	36	90	競技選手の健康管理
	37	90	スポーツと薬物
応用科目 応用 II	24	90	トレーニング(1): 筋力トレーニング
	26	90	臨床的・バイオメカニクス
	29	90	スポーツと内科(2): 循環器疾患・呼吸器疾患
	32	90	スポーツ外傷とスポーツ障害(2)－上肢(肩・肘・手指)
	34	90	スポーツ外傷とスポーツ障害(4)－その他の外科的疾患
	38	90	スポーツ行事と安全管理(1): 競技会における医療体制、内科的救急処置
応用科目 応用 III	40	90	競技と安全対策
	25	90	トレーニング(2): 持久性トレーニング
	27	90	体力測定
	30	90	スポーツと内科(3): 内分泌・代謝疾患、腎臓疾患他
	33	90	スポーツ外傷とスポーツ障害(3)－下肢(膝・下腿・足)
	35	90	アスレティック・リハビリテーション
39	90	スポーツ行事と安全管理(2): 現場における救急処置	
41	90	アスレティックテーピング・ブレース	

1,800

合計 3,270

科目	No.	時間(分)	新カリキュラム	科目	分類
応用 I	26	60	スポーツと環境	応用 I	
	27	60	スポーツによる心理的障害		
	28	60	メンタルトレーニング(神経系のトレーニング)		
	33	60	スポーツによる内科的障害		
	37	60	スポーツ外傷・障害の最新情報(1)－脊柱・骨盤・大腿		
	44	60	アスリートの健康管理の実際		
	45	60	ドーピング・コントロールの実際		
	49	60	スポーツと海外遠征		
	51	60	スポーツと眼科		
	29	60	筋力トレーニングの理論と実際		
	31	60	スポーツバイオメカニクス		
	34	60	循環器疾患とスポーツ		
	35	60	呼吸器疾患とスポーツ		
	38	60	スポーツ外傷・障害の最新情報(2)－肩		
39	60	スポーツ外傷・障害の最新情報(3)－肘・手関節・手指			
応用 II	42	60	スポーツ外傷・障害の最新情報(6)－その他の外科的疾患	応用 II	
	46	60	大会救護と救急医療		
	47	60	競技と安全対策		
	30	60	持久性トレーニング		
	32	60	アスリートの体力評価		
	36	60	腎・肝・消化器疾患とスポーツ		
	40	60	スポーツ外傷・障害の最新情報(4)－膝		
	41	60	スポーツ外傷・障害の最新情報(5)－下腿・足関節・足部		
	43	60	アスレティック・リハビリテーション		
	48	60	テーピング・ブレース		
50	60	スポーツと歯科			
52	60	スポーツとアレルギー疾患			

1,620

合計 3,120

整形外科部別は5分野とする。

-----の留意点

現行カリキュラムの基礎科目 II No.12、応用科目 I No.37、応用科目 III No.39について、カリキュラム改定に伴い、分割などにより科目領域の移動が発生しており、それぞれの科目が未受講だった場合、点線で示された対応科目については受講を義務付けない。

別紙『カリキュラム改定について』の文中(注1)と(注2)を参照。